

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

ホームページ

<http://shakaisushin.cool.coocan.jp/>

発行所〓社会通信社

発行人〓滝野 忠

e-mail: shakaisushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目一八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話/FAX(03)3299-5367
振替〓0010019158431 労金〓中央労金本店No1154163

購読料〓月額(郵送350円・メール175円)

6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

烏(カラス)は減った、政界渡り鳥は今も

滝野 忠……2

とんでもない、国の原発事故「避難」計画

原発事故被害者相双の会……3

― 帰りたいけど帰れない ―

「アベノミクス通信簿」

― 『週刊朝日』による 中間総括 ―

小林 晃……6

東京総行動・経団連行動、西日本集會

― 全労協 三月ストライキ闘争で賃上げを! ―

全労協……8

木下栄治氏を悼む

― 米澤 昭彦氏の「弔辞」 ―

編集部……10

読者からのおたより……

11

旬刊社会通信

NO. 1212

二〇一六年三月一五日号

二〇一六年三月一五日発行
(毎月一日・一五旦二回発行)

鳥（カラス）は減った、政界渡り鳥は今も

「通信社」事務所は渋谷区の北、世田谷、中野、杉並の区界にあります。真正面には都庁、オペラシティ、東京ガスを中心に約五十本の超高層ビルが林立しています。高層ビルの向こう側（東）は都民のオアシス代々木公園、新宿御苑があり、反対の西（事務所裏側）は世田谷の馬事公園などやはり公園群があります。

事務所からの楽しみは、ビルの間から上がりくる「真赤」なお月様、夜明けとともに西に向かう鳥（からす）の群れ、鳥たちは夕刻の五時「夕焼け小焼け」の童謡とともに群れ、編隊、群団をなしご帰還です。

昨年末から、この風景が消えてなくなりました。鳥の群団は姿を消し、二々三羽、多くつて五々六羽が悲しげな声を上げ、代々木公園、御苑に帰っていくばかりです。この「異変」、昨年夏頃から気づかされておりました。御苑、鳥多いんです。ですから私、御苑を「鳥公園」と名付け、中の池で水浴びーカラスの行水ですーを楽しみにしておりました。

御苑に鳥が少なくなり、水浴びも目にすることは少なくなりました。事務所近辺で恋を謳い上げ、家庭ゴミを食い荒らしていた鳥どもです。鳥がいなくなったこと他にも少なからぬ変化があるやに思われます。都市住宅街でもっとも元氣よく「おれはここにいる」とさえずりまくるのがヒヨ鳥、鳥好きの人は「氣付いてくれるかな」って群れをなしせわしげに小木を飛び交う目白、四十雀、知らない人は誰もいないスズメ、もつといえばオナガ、ジョウビタキ、モズを目にすることも希れになりました。カラスとともに、「葉殺」されたのでは：

鳥たちの受難のなか、政界「渡り鳥」はまだ健在であるようです。その典型が民主党と東京維新の合併・新党結成の動きです。政権交代から四年、民主再建の目途は立っておりません。それは七月参院選のスローガン選択肢に「民主党は嫌いだけど、民主主義は守りたい、すぐに信じなくてもいい、野党としてしめる役割をやらせてください」、国民の失笑を買ったことにも明らかです。

民主党支持率は一〇％弱に対し自民四〇％前後であり、この傾向は参院選までに逆転する可能性は多くありません。このアセリが右のようなスローガンをつくらせたということでしょう。民主に世界観がないのです。東京維新はもっと深刻です。分裂以降の支持率はゼロにかぎりなく近いのですから、参院選での生き残り、二年以内におこなわれる衆院選にまったく展望を見出せずあせりでいっぱいになりません。民主・東京維新「合併」の背景です。

昨年の「安保国会」は、六十年安保闘争以来といわれる国民的大衆運動高揚となり、「安保法制いらない、安倍やめろ」の声が全国を席巻。民主、維新のフラフラ議員たち、さらに連合をも「安保法制は憲法違反」「今すぐ廃案」に接近させたのです。

全国数百万のデモ参加者たちは、野党に「安保法制阻止、参院選は自民党を少数に

する絶好の機会」「参院選で共闘し、安保法制廃止、憲法改正阻止の条件をつくれ」「立憲主義を守れ」と訴え続けてきました。そして、五野党、老若男女・学者等の市民運動、労働組合、そして安保法制に反対する大きな塊が、まずは三二ある一人区での反自民の候補一本化を求め、熊本や宮城で大きな成果を上げているばかりでなく、他でも十指にのぼる一人区で一本化の努力が続けられています。

安保法制強行採決は昨年九月一九日、「戦いはこれから、今日が出発点」との抗議、歓声、戦いへの雄叫びが今も耳にあります。安保法制に反対する多くの市民、労働者、若者は「今の政治情勢下、反自民の戦線づくり、信頼関係を築くなかで、まず自民を小さくすることがベスト」と希望を見出しています。

これに応えたのが二月一九日、国会前集會に集まった参加者（一万人くらいかな）は、この日、五野党―民主、共産、東京維新、社民、生活の党―が共同提案した安保法案廃止、参院選での共闘合意に歓呼の声を上げておりました。

民主や東京維新は今も心配があります。「風頼み」であることです。議員の多く、民主候補は党活動の経験がなく、党・組織とはなにかを知らない、知ろうともしない人が少なくないからです。そんな彼らが「安保国会」で大衆に逆らってはなにもできないことを知りました。彼らが望もうと望むまいと、大衆は彼らをますます前方に駆りたててゆくのです。

ドイツのプロレタリアートの最もすぐれた詩人ヴェールト（一九世紀）は歌います。

「この世でいちばんすてきなことは それは敵に嘯みついて 下司どもを全部 だじやれで笑いとばしてやることだ」

参院選で自民党に嘯みつき、彼らと渡り鳥にだじやれをとばしてやろうではありませんか。（滝野 忠）

とんでもない、国の原発事故「避難」計画

― 帰りたいけど帰れない ―

国の「避難指示」は信用できず―南相馬市など独自の避難計画

2月20日朝日新聞の1面トップに大きく「国の指示待たずに原発避難」の見出しが出ました。国が定める原発事故時の「避難計画 指針」では、事故が起きたら5キロ圏はすぐ避難だが「5〜30キロ圏は屋内避難させ、そして毎時500μSvに達したら数時間以内に、毎時20μSvが1日以上続いたら1週間以内に避難させるというのです。

この指針ではやっていけないと、多くが30キロ圏内の福島県南相馬市と浪江町が国の指示を待たずに避難する独自計画をたてたという記事です。

何の反省もない国

福島の被害者にとっては当然です。国の情報や指示など誰も信用できません。

3・11の原発事故時を思い出すと、国からの指示が何も来ませんでした。どこへ避難すれば良いのかも分からない。事故が分からないまま数日留まっていた人、避難した先が線量がもつとも高い地域だったりした人も数万人を下らないでしょう。なぜ国

はあの時、正確な放射線量を住民に周知しなかったのか、すぐに避難指示を出さなかったのか。

事故の後にあわてて作成した国の「避難指針」は、原発により近い住民を早く逃がすため交通渋滞を防ぐためには「5〜30キロ圏内は避難せず自宅にいなさい」と言う。しかし、大事故となると20kmや30km圏も、ほとんど大差がありませんでした。風向きや風速によっては、何十キロも離れた地点が、原発構内と同じくらいの高濃度の放射能に襲われました。

地域住民は安全神話の中でどんなことがあっても「大丈夫」とだまされてきました。東電・国は事故が起きた場合の対策を机上のものしか作成せず、原発は危険と訴えてきた団体が、避難道路をつくれ、避難訓練をせよと求めてきたにもかかわらず何もやらなかったのです。

それだけに、事故がおきたときのパニック状態はすさまじいものとなってしまいました。原発事故で住民がどんなに恐怖を感じたかを知らず、事故後も机上の空論を並べ、住民を「屋内にとじこめておけばいい」などと考える国は、3・11を少しも反省していません。

廃炉だって危ない―なお「非常事態」の福島

廃炉作業中の福島第1原発の周辺自治体が、国の避難基準への異議を唱えたのは、事故後の廃炉作業がいかに危険であるかを痛感しているからです。廃炉作業が進んでいると言われますが、汚染水対策でこの5年間追われ解決のめども立ちません。燃料棒もまだおかれたまま。工事できおり放射性物質が遠くに風でまき散らされる。炉心部分は誰にも何か起きているかわからない。廃炉作業と言ってもとんでもない事故による廃炉ですからどんな危険が待ち受けているかわかりません。

福島県はなお、原発重大事故の「非常事態」が解除されず続いているのです。地域住民はどんなことが起きても良いように、つねに車にはガソリンを満タン状態にしています。

全国から声をあげてほしい

わたしたち福島原発事故の被害者は、全国の前立地と周辺地域みなさんに同じような悲劇はくりかえしてもらいたくありません。再稼働などともない。国の「避難計画基準」など何の役にも立ちません。各自治体から国に対し「基準」の撤回を求めてほしいです。

正常な廃炉作業であっても、電気を消すようなわけにはいきません。危険がともなうし、とんでもない労力とお金がかかります。それがすべて電気料金に転嫁されます。再稼働しない地域でも、住民には常に避難対策が必要です。

「4月中避難解除」なんて―怒る南相馬住民

政府の原子力災害現地対策本部は、2月19日に南相馬市議会に対し「4月中の避難指示解除をめざす」と提案しました。市議会では批判が相次ぎました。小高区をはじめ

め市内の避難指示区域には1万1千人が避難中ですが、説明会が開催中。どこでも反対の声がたくさん出されています。

国は「避難解除しなければ復興が遅れる」、「放射線量は健康に問題のないレベル」と繰り返しています。この5年間なんのための避難だったのでしょうか、避難するといふ事はその地が危険だからです。除染したから解除しますと言いが、誰が線量を測定しても平常の3倍〜20倍はあります。場所によっては100倍もあるのです。

放射線には絶対安全と言うものはありません。ですから被ばくするよりは被ばくしない方が良いに決まっていますのです。特に細胞の活発な子どもは最も危険です。つまり安全という値はありません。

これ以上誤魔化されないようにしよう

子どもを守るのは親であり大人です。私たちに一番大事なものは命と健康ではないでしょうか、自然災害は逃れようがありませんが、対策をすれば最小限に抑える事ができます。

放射能は自然界のものを除けば人間がつくったものであり、最も危険なものです。安全などは絶対ありません。70年前、広島・長崎に投下された原爆、一九七九年3月28日アメリカ合衆国東北ペンシルベニア州のスリーマイル島原子力発電所事故、一九八六年4月26日ソビエト連邦（現ウクライナ）のチェルノブイリ原子力発電所事故では、地域住民は何十年過ぎても二世三世と苦しんでいるのです。放射能に安全という言葉はありません。惑わされないようにしましょう。

これで「帰還」できますか？！

◆昨年秋季小高区内で採取したキノコ放射能汚染

セシウム134は、6266・55 Bq

セシウム137は、27341・7 Bq

合計 33608・252 Bq

◆南相馬市小高区川房行政区内土壌の測定結果

除染されていないお宅を2軒紹介して頂き、原発事故以来攪乱されていないと思われる敷地内の草地で土壌サンプリングを行った。サンプルは、京都大学原子炉実験所にて風乾後、小石、根っこなどを取り除いて、ゲルマニウム半導体測定器(米国 Canberra 社製 GX3018)にてガンマ線分析を行い、放射性セシウムを定量した。私たちは測定結果を見てこのまま子供たちを帰還させていいのかと考えるを得ません。

この調査はあくまで家の敷地内です。政府の「避難指示解除」の目安は、自宅から周辺20メートル以内の線量ですが、南相馬の里山は農地や住宅地よりはるかに多いのです。そして自宅の周辺の里山こそ線量が高く、除染は困難だと、今頃になって無責任にも国も認めざるをえなくなつたのです。

いったい、子供が通学以外は自宅から数十メートルより遠くへは行けない、里山も入れないなどという状態で、健やかに育てられるでしょうか。

『原発事故被害者 相双の会』No.46、二〇一六年三月一日発行

「アベノミクス通信簿」

―『週刊朝日』による「中間総括」―

一

『週刊朝日』の一月二二日号に、「アベノミクス通信簿」と題して、アベノミクスをいわば、「中間総括」する記事が載っている。（現在は、「一億総活躍社会」を目指す「新3本の矢」、「強い経済」（GDP六〇〇兆円）、「子育て支援」（希望出生率一・八）、「社会保障」（介護離職ゼロ）という、参院選向けの政治的デマゴギー色濃い「第2ステージ」へ移っている）。

「年明け早々、百貨店の初売りでは福袋が完売し、景気のいいニュースが聞こえてきた。だが、庶民の財布は厳しいままだ。大企業の業績は上向きだが、中小零細企業は低迷、所得の格差は広がるばかり。アベノミクスの効果はあったのか。3年前と比べて経済指標を徹底検証する」。

幾人かの学者・評論家へのインタビューを交えながら、景気・賃金、中小企業、雇用、円安の五項目にわたって、「経済指標」による「検証」を行っている。総論的な結論から先に紹介すれば――

「アベノミクスはデフレからの脱却、富の拡大が目的でしたが、今後インフレ経済にするのは難しいでしょう。円安や株高で潤ったのは大手企業や富裕層だけ。全体として実質賃金の低下を招き、格差を拡大させた。庶民の生活水準の悪化を考えれば、アベノミクスは完全に失敗だったことがわかります」

「景気、賃金、中小企業、雇用、円安の各項目を検証してみた結果、アベノミクス3年の総合評価は『もう少し頑張りましょう』の『2』といったところか」。

二

みられるとおり、「中間総括」は、「デフレからの脱却」（恐慌の慢性化にたいする独占資本のための景気対策、柱をなすのは財政金融に係る政策）の名のもとで、「潤ったのは大手企業や富裕層だけ」で、「実質賃金の低下」「格差の拡大」「庶民の生活水準の悪化を考えれば、アベノミクスは完全に失敗だった」という。

だが、この限りでいえば、「失敗」というよりは、むしろ逆に「成功」というべきであろう。というのは、現代資本主義（国家独占資本主義）下の独占資本とその政府による経済政策は、「アベノミクス」を含め、一般的・基本的に、独占資本の資本蓄積にたいする政策的なバック・アップに他ならず、またそれ以外のものではありません。『資本論』が論証しているとおり、「資本主義的蓄積の一般的法則」「窮乏化法則」すなわち「一極における富の蓄積」（「大手企業や富裕層」＝独占資本）と「対局における窮乏の蓄積」（「庶民」）が、「アベノミクス」によって、政策的に一層促進されたとい

うことである。「庶民」の犠牲（搾取・収奪）の上で、ひとり独占資本のみが「潤った」のである。マスコミですら、「3年前と比べ」た「効果」について、ほぼ全面批判せざるをえないほど露骨に。

経済政策論的にいえば、「アベノミクス」は、ケインズ主義と新自由主義の場当たり的ごった混ぜである。（拙著『現代と「資本論」』、新潮社・Ⅱ参照）。

また、「中間総括」は、「完全な失敗」論と合わせて、子供達の「通信簿」に準（なぞら）えて、「アベノミクス3年間の総合評価」は「2」（5段階中の）という。裏を返せば、「努力」と「頑張り」次第で、「庶民」にとつて良い「アベノミクス」になり得る、すなわち「4」や「5」になり得る、ということになる。

このような「中間総括」の総論的な評価を俎上に載せたのは、たんなる言葉尻の問題ではない。分析の基本視点に係る問題である。科学的・階級的視点の有無の問題である。だが、マスコミに、そこまで求めるのは、いわば「無い物ねだり」に等しい。しかし、分析視点のブルジョアの限界、より正確に言えば、小市民（小ブルジョア）的限界はあっても、現象次元の個々の総括は、学習・討論の資料として、それなりに役立つと思われるので、五項目の「検証」結果を「評価」に関心のある方は、参照されたい。

※「中間総括」における「五項目」の要旨抜粋

（一）景気 「GDPは微増でも、個人消費は冷え込んだまま」

「総務省が発表した家計調査を見ると、家計がどれだけ苦しくなっているのかがよくわかる。

昨年11月の1世帯（2人以上）当たりの消費支出は27万3268円で、前年同月比約3%減。3カ月連続のマイナスだった。3年前と比べても下がっている。

消費税は上がり、年金は物価が上昇した分を抑えるマクロ経済スライドが発動されたため、受け取る年金額は実質減っています。さらに、生活保護費は3年間で740億円カット」。

「生活の困窮さを表した数字はまだある。家計の支出に占める飲食費の割合を示す『エンゲル係数』。14年度に急上昇し、全国平均で24・3%を記録。21年ぶりに高い水準となった。貯金がない世帯は3割超。社会保障費はカットする一方で、防衛費は16年度予算で5兆500億円となり、初めて5兆円を突破。軍事増強に余念がない」。

（二）賃金 「円高で企業は最高益更新も「内部留保」をため込むだけ」

「アベノミクスでは、企業業績が改善すれば、従業員の給料もアップする。消費者の購買意欲が高まり、デフレから脱却できる——という青写真を描いていたが、賃金が上がらなかった」

「財務省の法人企業統計の、企業が従業員に支払った給与の総額を見ますと、12年10～12月期は29兆円ありましたが、直近の15年の7～9月期は28兆円。1兆円減っ

ています。企業は過去最高益を出しているのに、従業員の給料は減っている。どこにお金に向かっていているのかというと「内部留保」。資本金10億円以上の大企業がため込んだ内部留保は301・6兆円。3年前と比べて約40兆円も増えた」。

(三) 中小企業 「中小零細は資材高で経営悪化、資金繰りできず倒産予備軍へ」

「大企業から中小企業に、大都市から地方にお金が回る『トリクルダウン効果』が起これなかった。従業員5人未満の零細企業の倒産件数は年々増加し、総件数に対して71%は過去最高」。

「爆買い」で、大都市の大手百貨店や量販店は恩恵を受けているが、人口減の地方の「シャッター通り」は変わらない」。

(四) 雇用 「求人は増えても正社員は減少、増えたのは非正規社員」

「利益をため込むことに余念がない日本の企業は、その一方で、自民党への政治献金は怠らない」。

経団連は、政治献金の呼びかけを14年9月に再開。政治資金収支報告書によると、14年、自民党の政治資金団体『国民政治協会』への企業・団体献金総額は、22億1312万円。努力のかいあってか、法人税の引き下げなど、法改正で大企業は優遇される」。

「安倍首相は、事あるごとに『雇用者数は110万人以上増えた』と強調しているが、中身を見てみれば、非正規雇用者が約170万人増えて、正規雇用者はほぼ横ばい。有効求人倍率は1・25倍だが、正社員に限って言えば0・79倍しかない」。

(五) 円安 「政府の借金は日銀が肩代わり、ツケ先送りで金利上昇リスク」

「円安を実現させたのは、日銀の大規模な金融政策。『脱デフレ』を目指して、13年4月4日に異次元の量的金融緩和に踏み切った」。

政府の借金である国債を大量に購入することで成り立つ金融緩和は、将来の金利上昇(国債価格の下落)リスクを伴う」。

「一気に進むと日本国債の暴落を招く。量的金融緩和を縮小へと政策転換する『引き締め』が行われたとき、金利の上昇が加速するだけでなく、利払い負担に財政が耐えられなくなる」。

(経済学者・小林 晃)

東京総行動・経団連行動、西日本集会

―全労協 三月ストライキ闘争で賃上げを!―

東京総行動 二月一九日、早朝、郵政本社前集会から二コースに分かれて各爭議の現場、親会社に対して爭議解決を求めて行動してきた東京総行動の一行は、昼休みに経団連前に続々と詰めかけ、要請行動に参加する仲間と合流した。近隣のビルから出て

きた昼休みの労働者は三台の宣伝カーと二〇〇名を超える労働者、全労協をはじめとした数十本の幟をみて何事かと遠巻きに見守った。

昨年一二月、16けんり春闘は発足し、「非正規労働者に均等待遇の実現を！労働者を苦しめる労働法制改悪反対！原発再稼働、武器輸出を許さない！」をスローガンに、16春闘勝利に向けた第二波行動として経団連要請行動が取り組まれた。集会は東京全労協の寺嶋事務局長によって進められ、最初に主権者挨拶が大阪ユニオンネット・垣沼代表から行われた。続いて16けんり春闘の共同代表を勤める全港湾の松本委員長、金澤全労協議長が発言し、それぞれ16春闘に取り組む状況と決意が述べられた。その後、全造船関東地協から風呂橋さん、国労高崎地本 関口委員長、郵政ユニオン・中村書記長、全国一般なんぶから中島書記長が決意表明を行った。そして争議を闘っている全国一般東京労組のフジビ分会・小金井委員長の闘いの報告を受けて経団連に対する要請行動が行われた。

経団連行動 経団連は今回も警備員を多数、玄関前に配置して経団連の職員は対応することもせず、要請書の受け取りさえ拒否するという許しがたい態度に終始した。労働者を過労死や過労自殺、メンタル疾患などに追いやり、ブラック企業と言われるように、利益確保のためには労働者の権利や生活に全く配慮せず、東芝の不正会計や原発事故の責任を取らない東京電力などのように、経営者として社会的責任を全く取ろうともしない、大企業のブラック化は経団連の指導体質の中にあることを自覚できないのである。

経団連は労使協調によってストライキや闘いを放棄する労働組合のみを対話の対象とし、現場の労働者の声をいっさい聞こうとしない姿勢は糾弾されなければならない。

西日本集会 二月二〇・二一日の2日間にわたって西日本討論集会が大阪で開催された。九州や四国、中国地方からも仲間が参加。昨年は四国・松山で開催され、来年は広島で開催されることになっている。全体の進行は大阪全労協の竹林事務局長が行い、福田議長が主催者を代表して歓迎の挨拶を行った。今回の討論集会は地元大阪全労協と大阪ユニオンネット（全日建連帯労組、全港湾、大阪全労協などで構成されている）等が実行委員会を組織して準備してきた。

第一日目（二〇日）、全労協本部から中岡事務局長によって16春闘方針が提起され、それを受けて闘いを豊富化させるために三つの分科会を設定して議論が行われた。討論集会で分科会を設定したのは初めての試みであった。設置された分科会は①賃金―最賃闘争、②争議交流―労働委員会の傾向と闘い方、③非正規の闘い―労契法訴訟の闘いの報告で、それぞれの分科会には三〇〜四〇名が参加し、全ての参加者に発言の機会が与えられた。

第二日目（二一日）は分科会からの報告と昨年発足した全労協青年委員会代表の渡辺学さんから「これからの労働組合を担う」という講演を聞き質疑が行われ、活発な議論となった。

分科会報告は京都・最賃 dndn 闘争の取組み、職場の賃上げ交渉の現状や今も継続

中の職場占拠闘争や悪質経営者との攻防、二つの労契法二〇条裁判など、それぞれの当該から報告を受けて討論がなされたことが報告された。分科会の成功を確認すると共に、時間の取り方など今後の分科会の持ち方なども確認された。

講演した渡辺さんの世代は労働運動や革新運動が衰退期にあたり、またコミュニケーションはSNSが主となり、仲間作りが困難であること、また不安定・低賃金の職場が圧倒的に多く、介護職場での労組結成と定着化に苦労したことが話された。そして労組の重要性を若い仲間にどう伝えていくか考えていることが話され、非正規労働者との連携や国境を越えた視点を重視して活動したいと抱負が述べられた。

その後の全体会議ではIWAI 争議支援が当該から訴えられ、地方全労協の活性化についての要望なども出された。福山ユニオンタンポポの武藤さんから来春闘集会を広島で成功させようとの発言を受けて、稲村常任幹事（京都総評）のまとめとガンバロウで締めくくった。いよいよ16春闘は三月の本番を迎えようとしている。ストライキ態勢をしっかりと確立して闘おう！（全労協 fax 情報 No.1716、一六年二月二四日）

木下 栄治氏を悼む

― 米澤 昭彦氏の「弔辞」 ―

木下 栄治氏（元国労青年部長、現連合十勝事務局長）が二月一七日なくなつた、五十八歳。栄ちゃんが国労青年部長の分割民営化反対闘争の時、ナツパ服姿で大集会を陣頭指揮していた姿が今も目に浮かぶ。栄ちゃんと最後に会い言葉を交わしたのは二〇一五年十月二二日と二四日。二四日には「家内です」と由季子夫人を紹介された。

元気そのものの、これまでと違った印象はなに一つなかった。十二月、木下氏の親友から「病再発」と。それからたったの二カ月：信じられない、信じたくない。栄ちゃんは生命燃えつきるまで生命の限りを労働運動強化につくし続けた。

五十八歳、志半ばで生命つきた悔しさ、栄ちゃんを惜しむ声は全国の仲間にはひろがっている。葬儀は二月二二日、友人の米澤 昭彦氏の弔辞を紹介する。（編集部）

弔 辞

木下局長、木下さん、きーさん、栄治、栄治さん、

栄ちゃん、こんなみんなの呼ぶ声が聞こえますか。

なんで、そんなところで寝ているんですか。

国労の先輩が言った「座して死を待つより、起つて反撃に転じよ」という言葉を、栄ちゃんは大事にしてきたんだから、寝ていられる情勢ではないでしょう。

もう一度、もう一度、起きて下さいよ。

今、ここで、こんなふうに話をする日が来るとは、夢にも思っていませんでした。ほんとうに早すぎます。

くやしくて、くやしくて、たまりません。

私が栄ちゃんと出会ったのは、国労釧路地本青年部の常任委員会でした。栄ちゃん

は二十四歳で、私は二十三歳でした。ふたりともリーゼントで突っ張っていましたね。栄ちゃんは、いつも「なにくそ！ 負けてたまるか！」と労働運動の先頭にたって頑張ってきました。

国労中央本部青年部長を務めている時の「団結ガンバロー」は感動させられたものです。

栄ちゃんは、賢い人でした。

常に先、先の事を考えて物事を進めていましたね。

そして、いつも、仲間の事を考えていてくれました。

栄ちゃんは、自分には厳しく、人にはやさしかった。

そうして栄ちゃんと出会って三十五年間、一生懸命、頑張りが続き、権力者には妥協しない栄ちゃんでした。本当に気を抜かないで、全力で闘い抜いてきた人生だと思います。本当にご苦労様でした。

しかし、最後は、病気との闘いに負けてしまいました。でも、お母さんを待つて、お母さんが来るまで、ほんとうに頑張り抜きました。

栄ちゃん、最愛の由季ちゃんと、お母さん、お二人を残していくのは、栄ちゃんが一番「無念」だと思います。

由季ちゃん、お母さんの悲しみも計り知れません。

残されたお二人は、みんな、できる限り「力」になりたいと思います。

どうか、安心してください。そして、温かく守ってあげてください。

栄ちゃん、三十五年間、本当にありがとうございます。

「お前とは兄弟以上の仲間」と言われ、共に闘い続けてきたことに、心から感謝致します。

いつまでも、私たちを見守っていて下さい。

どうか、安らかに眠って下さい。

さようなら。

二〇一六年二月二十二日

米澤 昭彦

◇ 読者からの おたより ◇

購読したい 滝野さん！ いつもご苦勞様です。今後、新たに3月1日号から購読したいのです。メールで配信願います。支払方法はどちらにいいでしょうか？ 教えてください。（山形・S）

編集部より 購読料、郵便振替でいただきました。ありがとうございます。（山形・S）

年金生活へ 今年四月から年金生活となります。後期からは各自払いです。（茨城・O）

編集部より Oさんもそうなんだ。私めも七〇歳を超えました。

送金 16年4月～9月分購読料1050円、ゆうちょダイレクトより送金しました。

（茨城・T）

編集部より 郵ちよ入金、確認いたしました。ありがとうございます。

毛利孝雄の辺野古の現場から―67 2・21国会包囲行動参加の皆さんに、土砂搬出反対全国連絡協議会が取り組んでいる土砂搬出反対署名と、三重で取り組まれている「田エンジニアリングに辺野古埋立用ケーソン建造中止を求める署名の用紙2点セット3000組を配布。集会終了後には、署名の列ができました。集まった署名は、「反土砂搬出」が743筆、「反ケーソン」が369筆。行動への参加呼びかけに協力いただいた皆さんに感謝。辺野古埋立土砂問題は、残念ながら事実そのものがまだ知られていない。同時に辺野古埋立は、全国に環境破壊の現場をつくり出している。それを知らせつなぐことだ。「署名用紙」が必要な方は連絡ください。データで送ります。

私の願い 「一億が、火の玉決戦 過去之道 広島・長崎 沖縄忘れず」 「憲法の 第九条を永久（とわ）に記憶 戦争放棄 軍隊不保持」 「原発の 海外輸出 許さぬぞ 反核・原発 闘争強化」 「安保法 強権政治 安倍与党 悪法撤回 九（く）条堅持」

木下栄治さん とても辛く、悲しいお別れでした。額には国労の団結ハチマキを……。大好きなゴルフクラブ（木製）やゴルフウェア、様々な写真。出棺には、参列者全員が白菊を添えて見送りしました。大好きだったメリージェンの曲が葬送曲 四人の方の弔辞の中で、米澤昭彦さんのは涙が止まりませんでした。多くの人に愛された木下栄治さん 私人の立場より 公人（労働運動）に捧げた人生、由季子さんの支えが在ったの事……。一月二三日に、夫妻と食事したのが、栄治さんの最期の顔でした。なんだか色々ありすぎて私の頭も整理がつかない状態です。

由季子さんはもともと悲痛でしょう。気丈に振る舞う彼女の姿が余計涙ぐましかった。体つきは、昨日声を掛け抱きしめた時、ふたまり小さくなってました。

木下夫妻との付き合い、私は二八年以上、夫は青年部の時からです……。社青同の仲間同士、米澤夫妻とも、車で一泊二日の旅行や、私達が（第三次広域採用で）こちらに来る時も送別会をしてくれたこと、六年前には神楽坂でフレンチ、楽しい時間を過ごしたこともいい思い出になってしまいました。

編集部より 悲しく辛く悔しい。しかし、ありのまま受けとって生きていくしかありませんよね。よろしく 一年分+カンパです。お手間かけます。よろしく。 （東京・兼子 千栄子）

編集部より カンパに感謝です。こちらこそよろしく。 （東京・H）

寒い 佐久（長野県）、北海道より雪はないが寒いこと、風が強く北海道より厚着してます。編集部より 過日、北陸新幹線を旅。佐久駅、まるで軍艦島、町の発展に貢献しそうです。 （長野・菅原 須摩子）

んな。北海道、暖房いきとどいていますものね。

誌代 いつもお世話になっております。誌代一年分送ります。

編集部より 誌代ありがとうございます。

慣れてきました 一年振り込みます。残額は僅かですがカンパです。議会の方、少し慣れてきました。 （名寄市議・佐久間 誠）

戦争反対 世界地図をみていると、戦争など馬鹿げたこと。軍事力で強い国は、人類として最低の価値観。テロの横行が拡がっており、罪もない一般市民が殺され、何百万人の難民の発生はあまりにも悲しい。核保有国が平和を守る強い国など理に合わない。自民および保守層は「平和ボケ」を言って安保関連法案を可決した。「人類愛」という言葉で押しつぶそう。アメリカの大統領選挙で民主社会主義を自称する候補が善戦している。イデオロギーの時代は続いているのです。我々は何と自信を持とう。新社会党の時代、かならず来ることを信じて。 （名寄市・斎藤 二郎）

編集部より イデオロギーは大事です。今は資本主義のイデオロギーが大あばれしている時代。私たちのイデオロギーを再興せねばなりません。

原発全廃びわ湖一周デモ（5月4～8日） 高浜原発再稼働に抗議し、8月ともうそぶかれています。大飯原発再稼働に反対して、びわ湖一周デモを企画しました。5月の連休の後半、一生に一度は日本最大の湖「びわ湖」を5日間（5月4日（水）～8日（日））で一周してみませんか！事故が起こる前に、原発を全廃しなければなりません。琵琶湖、日本海、関西一円を放射性物質で汚染させてはなりません。申し訳ないですが、宿泊は各自で確保となります。詳細日程は追ってお知らせします。主催・「高浜・大飯原発再稼働反対！二〇一六びわ湖一周デモ実行委員会」実行委員長・田中徹（滋賀県野洲市在住）、呼びかけ・第50回脱原発市民ウォーク・イン・滋賀実行委員会、協賛・さいなら原発・びわこネットワーク&若狭の原発を考える会 【賛同金 一口一千元、郵便振り込み番号 01030-6-63321「稲村守」名義、※公表の可否を通信欄にご記入ください。団体名でもOK】

連絡先 Ⅱ 稲村守 携帯電話 080-5713-8629 P Cメール sinamu2002@yahoo.co.jp